

2009年 廁うんちくカレンダー



陶製洋便器 19世紀オーストリー



染付向高小便器



染付角型大便器



チャンバーポット 18世紀

恭 賀 新 年

年賀状のあいさつのひとつに「恭賀新年」がある。「恭賀新年」とは、「うやうやしく新年を祝う」ということである。「恭」は「うやうやしい」という意味だ。
しかしこの「恭」という漢字は、現在の中国語では「うやう

やしい」という意味のほかに、なんと「大便」という意味ももっている。現代の中国語で「出恭」といえば「大便をする」こと、「恭桶」といえば、それは便器の「おまる」のことなのである。

この意味の変化には実は「科举」がからんでいる。人類史上もっとも難しい試験とされた「上級公務員採用試験」は本試験の受験資格を得るための予備試験からはじまる。学校の教室のような試験場で実施されるのだが、試験中は室外にでるのはもちろん、座席を離れることさえ許されない。ただし飲茶と用をたすためだけ、一回に限って室外に出ることを許された。受験場から出るときには、受験者は書きかけの答案用紙を係官に預け、「出恭入敬」(出る際にはうやうやしく、入る際には礼儀正しく)と書かれた木札を受け取って室外に出なければならなかった。その手続きはかなり面倒で、時間も惜しいので、多くの受験生は試験場内に「不浄瓶」(しびん)をもちこみ、小用のときはそれを使った。だから実際に「出恭入敬」の札はほとんどの場合大便のためだった。それで「恭」が大便という意味をもつようになったというわけだ。

(阿辻哲次 部首の話 中公新書より)

他の便所の呼び方を調べると厠(川屋)、樋殿、閑所、隠所、装物所、高野山(山に入って髪(紙)を落とす)雪隠、手洗、手水、はばかり、不浄、後架、渡辺(便所の鬼を退治した渡辺綱の名から)勘定板(便所のない地方で海辺や川辺に紐に結んだ板鐸かべ、板を引寄せてその上に用をたし、水に流した)東司。隠語ではキジ打ち、花摘み、サービス業では8番、遠方、二の字、など従業員で決めている。外国ではフランスで穴あき椅子、例の香りの家具、エスカルゴ、詩人の座、英国でコンビニ(公衆便所)、ドイツで室番0、0号室、中国で1号、身だしなみの部屋等お国柄がみられる。



2009年

1 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

染付の美を贅に

佐賀県唐津市に杵島炭鉱の主であった炭鉱王・高取伊好^{これよし}の邸宅が残り、一般に公開されている。明治38年に海岸に面した2300坪の土地に建てられた、数奇屋づくりの大邸宅である。座敷には能舞台がつくられ、マントルピースの高い煙突を持つ洋間もあった。便所にいたっては5ヶ所も造られた。

その便所には染付古便器が備えられていた。14世紀、元で生まれた、酸化コバルトを顔料で描かれた愛染めに似た染付の古便器がである。

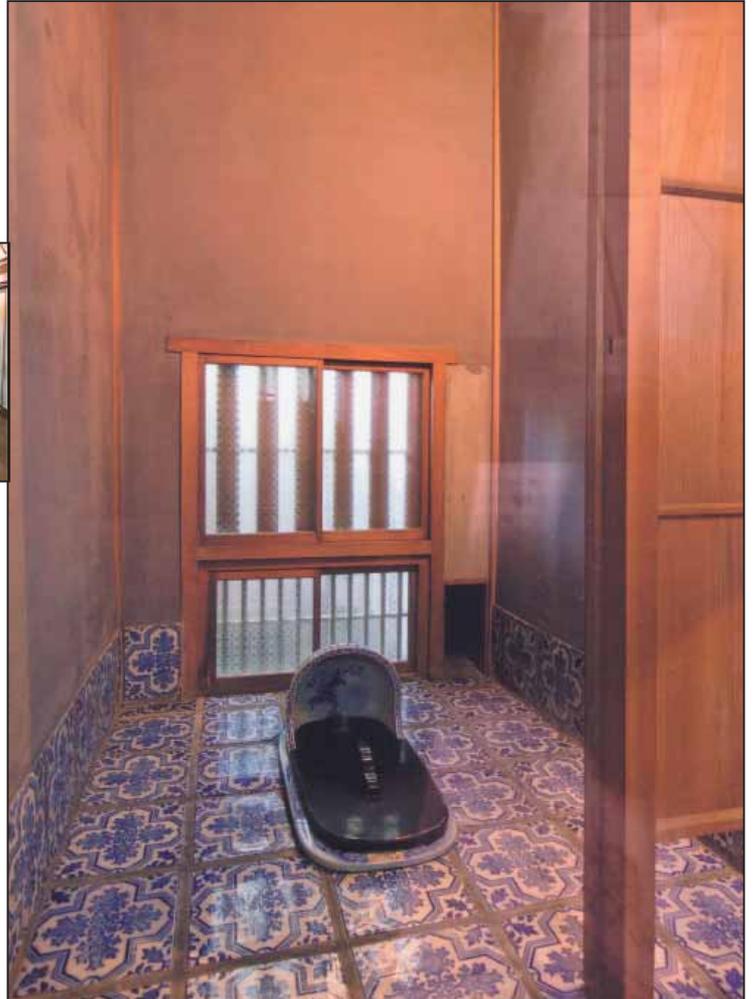


国指定重要文化財に指定された近代和風建築。木造2階建邸宅は棟続きの居室棟と大広間棟からなり、延べ床面積約1500㎡。



左
英国ジョンソン兄弟社製の小便器。有田焼のタイル。

右
客人用便所トイレ、厠は応接間であるということを実感させるものである。瀬戸産の小判型染付大便器。



2009年

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

厠の音も変わる

厠から聞こえる"音"も時が変われば変化しようというもの、江戸時代であれば"音消し壺"からの音が聞こえ、昭和ともなれば、水洗式便所の普及とともに"音姫さま"がいたるところで擬音消ジャーの音色を奏でている。これが、近き将来は個人の好みの音が奏でられそうだ。静かに瞑想に耽る

場としての厠の存在を危ういものにしようとしたツールが出現してきた。



岡山県矢掛町に残る重要文化財の本陣内に残る"音消し壺"。青銅製、蓋つまみは親子亀、蛇口は龍の装飾。厠内での排泄音を消すために使用する壺。厠を使用するとき栓を抜き水を出し、その音を利用し、消音。退出時にその水で手を洗う。庶民の厠にも、厠土瓶、厠だんごなどが存在した。身分を問わず、排泄音には気を使ったようである。



最早、建築設計段階からその存在を考慮される音姫。



目的は違えど 自ずと消音にも利用されるやも知れぬ iPod、はたしてどのような音色が醸しだされるか？

2009年

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

戸惑い



英国、ロンドン、Club
Kabaret's Prophecy



ドイツ、フランクフルト
New Radisson SAS Hotel

ニュージーランド、クインズランド ホテル SOFITEL の2階のトイレの壁面 6mの壁に6人のモデルがそれぞれの表情、動作で何かを発信している写真が貼られている。トイレのインテリアも多様化して床面、壁面、天井等に種々の素材、材質が用いられて光と色彩にも意を注いだもの設計されてきている。

なかに、絵画、写真を用いたものが徐々に増えてきている。この3枚の写真のトイレは女性を男性トイレの壁面に描き、従来にないトイレの雰囲気と利用者の思いを抱かせるものである。上のSASホテルで、貴方だったらどの女性の前に落ち着けるであろうか、そして普段どおり済ませられるであろうか。

参考文献

Public Toilet Design
Restroom Contemporary design

A Firefly Book
Laurence King

2009年

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

有料トイレ

最近、有料便所の話題が聞かれることが多い。有料便所にも3つのスタイルが存在するようである。受付が入口で料金を受け取るもの、機械が料金を受け取り扉を開けるもの、そして気持ちを置いてくるもの。最後の気持ち、チップのものは最近の自然環境保護の観点で自然の中に存在するようである。大きく話題になった秋葉原の有料トイレは有人型である。受付の係員は集金せず、施設の管理のほか、観光案内をしてくれる。集金はすべて自動、100円を挿入するか、スイカをかざすとドアが開く。女性用トイレには全身が見える姿見が付

東京駅八重洲北口に Kitchen Street というレストラン街があり、そこで食事をするとトイレ用コインをもらえる。このコインで八重洲北口1階のトイレが利用できる。コインが無くても100円を払えば利用できる。こちら係員が迎えてくれる。バリアフリーに意を注いだことを感じさせる有料トイレである。



最後は無人の有料トイレ。京都 JR 嵯峨野線二条城駅前の全自動トイレ。パリの有料トイレと同じ方式、便座固定式。100円挿入でドアが開き、10分間の使用時間。1分前に警告がされ、10分間の延長が1回だけ許される。使用后、ドアが閉じると同時に室内が自動洗浄される。このトイレ、韓国製で1ヶ月35万円での借用という。



料金ボックス

いた着替え台があり、男子の個室にはベビシートがある。受付から見通しのよい場所に“だれでもトイレ”。車椅子が方向転換できる広い室内には、大人用のおむつ替え台やオストメイトが備えられている。



広々とした内部



“だれでもトイレ”の内部



駅前広場に設置、目隠しの掲示があるのは日本的心遣いか

2009年

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

イスラム

シリアの首都、ダマスカス西北 200km、地中海に近いクラック・デ・シュバリエに十字軍時代の城郭が残る。その内部集会室の横壁にトイレがある。トイレの床下には流水路が設けられている。自然水洗式の水路である。さすが紀元前 3000 年、今から 5000 年前のシュメール王朝がメソポタミヤのウル、ウルクなどに残した遺跡に水洗式トイレをつくった地域、イスラム文明の豊かさを感じさせるものである。

シリア クラック・デ・シュバリエの城郭



紀元前の石をくりぬいた便座式トイレ下を水が流れる。メソポタミア文明期



内部集会室の横壁



横壁には流水路が穴の下に設けられた間がある

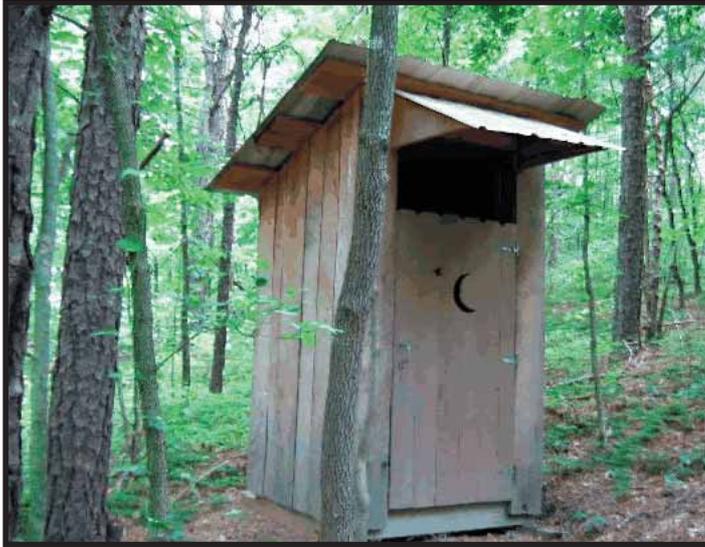
シリア 写真 宮澤 秀直

2009年

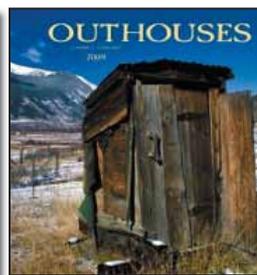
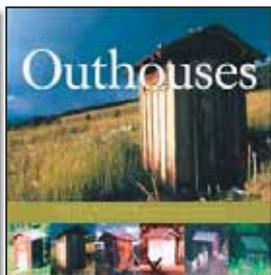
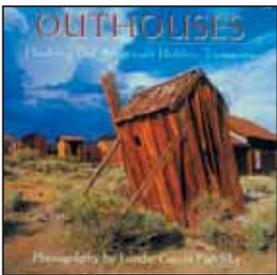
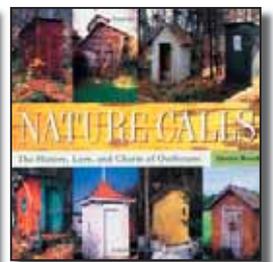
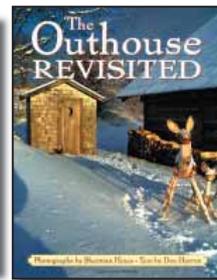
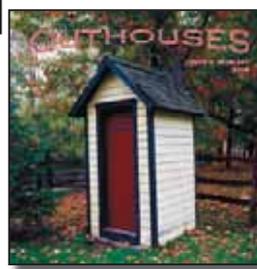
7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

OUT HOUSE



アメリカでは開拓時代を懐かしむ気持ちからか、自然のなかでの生活を大切に考えるのか、OUT HOUSE という小屋に心を奪われ、蘊蓄を傾ける人が多くいる。OUT HOUSE とは屋外便所のことである。OUT HOUSE に関する書籍も多く出版され、カレンダーまで作られ、更にアクセサリーにまでなっている。屋外便所がこれだけアメリカ社会に存在を認められているのは興味深いことである。



高さ 15, 横 8, 奥行 7mm の銀製の OUT HOUSE.
 ドアの中では下着を下ろし、読書しながら
 ドアにトイレットペーパーが準備

2009年

8月

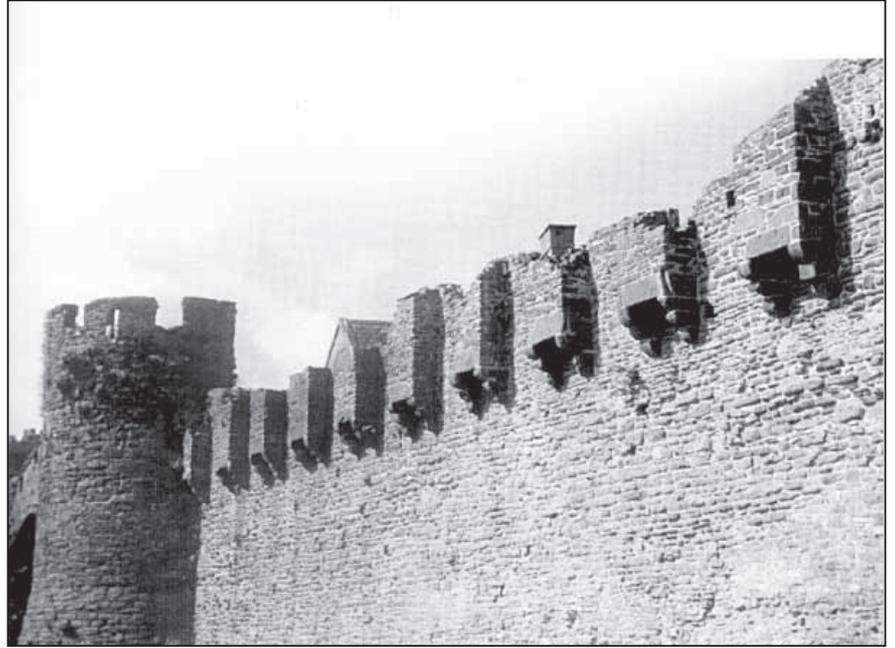
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

お城の中では

Garderobe と Privy という単語が英語にある。Garderobe は箆笥、作りつけ収納箆笥という意味と古くは個室、寝室という意味で使用されていたようであるが一方で屋内便所を意味することがあるようである。Privy は《米・英古》(特に、水洗でない)便所；屋外便所と辞書にある。この二つの単語意味を理解しやすい書籍がある。

右の写真は The twelve 'Garderobes' along the walls of Conwy Castle。騎士、兵士、そして Townspeople = 市民が使用したとしてあり、城砦都市の城には Privy に近い形で Garderobe を設けざるえなかったとしている。

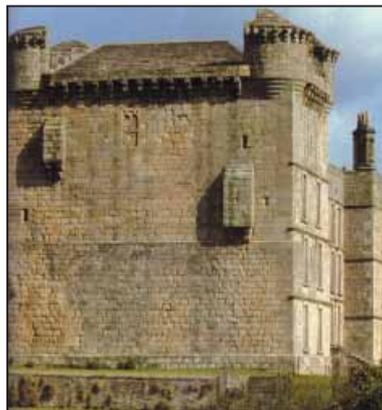
下の写真の Garderobe は領主の城や館のものであり、下右のような椅子式の便器は用意され、うな外壁に作られた穴から濠へと処理されていく。



英国 Wales 地方の Conwy Castle に見られる Garderobe



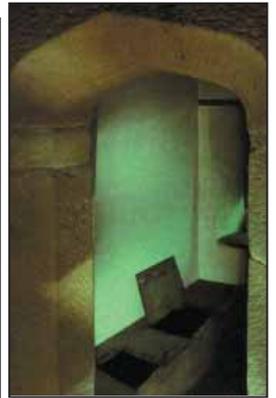
英国中部の Derbyshire 州 Peveril Castle



英国最北部の Northumberland 州 Peveril Castle



英国 NorthWales 州 Beaumaris Castle



英国 NorthIreland 州 GreenCastle Garderobe 内部

参考文献

PRIVIES OF WALES
TEMPLES OF CONVENIENCE AND CHAMBERS
DELIGHT

Tegai Publications
St. Martin's Press

2009年

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

紅葉の桂離宮砂雪隠



茶室松琴亭の待合腰掛 外腰掛



茶室 松琴亭



自然木を利用した雪隠の天井



入口から見た雪隠
紅葉が吹き寄せられ

2009年

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

染付の美しさ

染付陶器、磁器の染付とは白地の素地に呉須（酸化コバルト）で絵付けをし、透明釉を掛け焼成したもので、藍色と白の魔力で人々の心を豊かにしてきた。それは日常の食器類にとどまらず明治時代には花鳥画を中心とした花瓶等が作られ、有田、鍋島焼の華やかな焼物に伍して万国博覧会等に出品され好評をえて多く輸出された。それと同時に、瀬戸を中心に花鳥画を中心に芸術性の高い便器が作られた。こらは染

付古便器と呼ばれ、小便器だけでなく大便器も全方位に装飾がなされ、有名陶芸家になる、染付銘まで入れられたものまで存在した。

桃山、江戸期の厠は秘められた部屋としてではなく、人を楽しませ、癒し、思考させる部屋として位置づけられてきた社会階層の名残を示すものかもしれない。



向高小便器



花鳥図大花瓶



朝顔型小便器
竹に雀図



花鳥図スープチューリン



箱根空木図花瓶



泰山木図花瓶



角型大便器
花鳥蒲絵柄



小判型大便器
雪持ちの松



小判型大便器
牡丹絵柄



朝顔型小便器
朝顔図

2009年

11月

参考文献
染付古便器の粹

INAX ミュージアムブック

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

蒔絵のトイレボックス

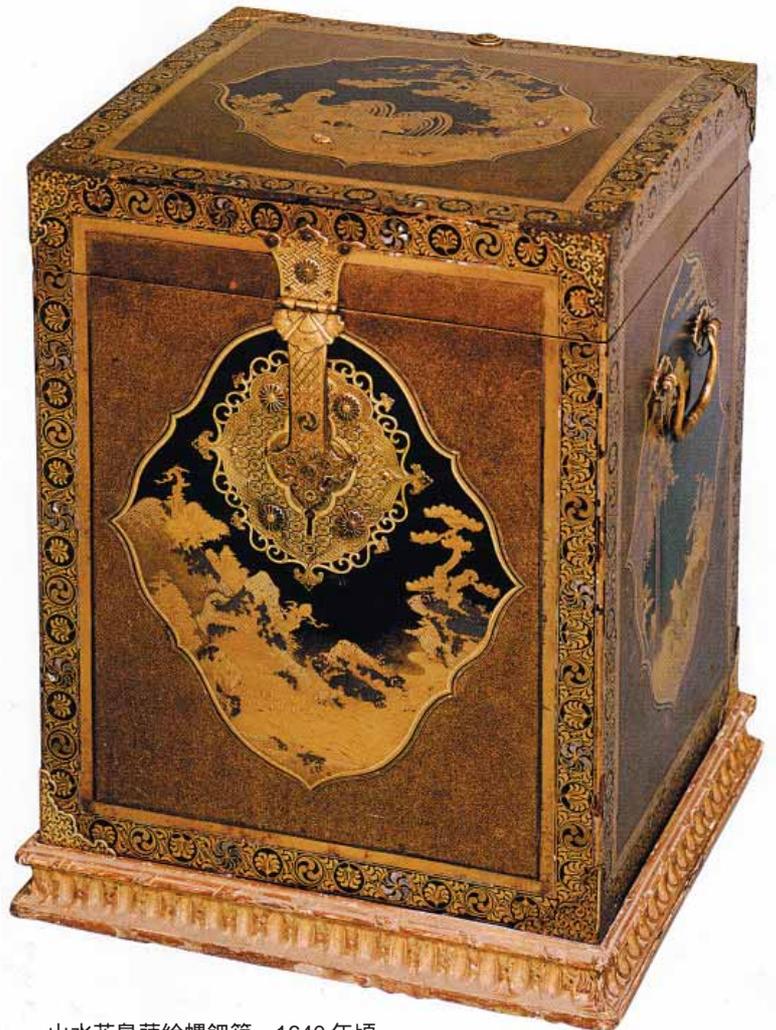
蒔絵は樹木ウルの樹液である「漆」を使用して器の表面に金属粉を固定して模様を描き出す。

写真は特注の御虎子。平戸オランダ商館の帳簿に出荷記録がある。「王や妃が使うにふさわしい。技術も、美しさも申し分なく、東インド会社は王族と親しくなれるであろう」

この箱、フランス王家に連なる公爵家に伝わり、1793年革命政府に没収された。革命後は国有調度品保管庫にあったが1867年パリ万博を機に開催されたマリー・アントワネット展のためプチ・トリアノンに移され、その後ヴェルサイユ宮殿に保管されていた。昨年10月京都国立博物館特別展「Japan 蒔絵 - 宮殿を飾る 東洋の燦めき - 」展で141年ぶりに公開。

蓋を開けると赤いビロードの座面、その下に固定された板には円穴が開けられている。裏蓋と中板は朱塗りでその下は黒塗り。中には陶器の美しいチャンパーポット（おまる）が使われていた。

金銀青金の平蒔絵、薄肉高蒔絵、金銀の金具や切金、銀鋳、彫金象嵌、螺鈿を駆使し、各面、枠内梨地に黒地の絵窓を開けている。天板には岩、松、槇、梅、桔梗、鶏が描かれ、側面には楼閣山水図、高士観瀑図、芥子が描かれ、細工が入念になされている。



山水花鳥蒔絵螺鈿箱 1640年頃
ベルサイユ宮殿美術館蔵

2009年

12月

参考文献
「Japan 蒔絵 - 宮殿を飾る東洋の燦めき - 」展図録

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		